

おおみや「みどり」の体感ワークショップ

2024年7月26日

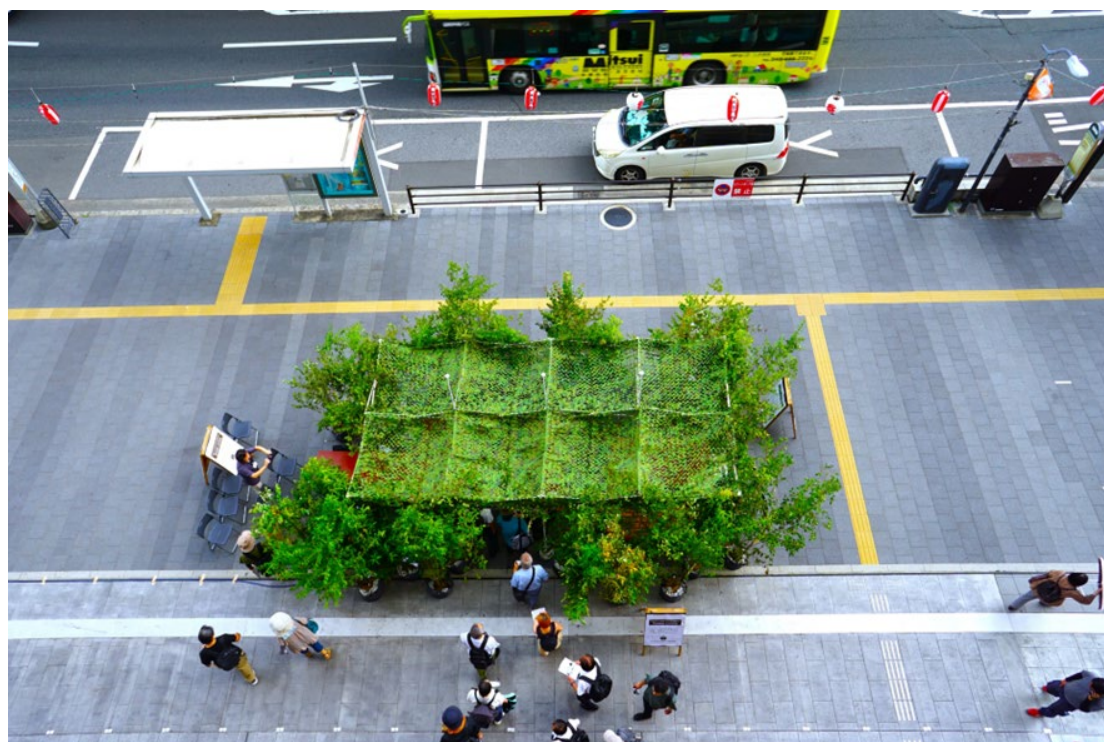
おみや街もり倶楽部
ランドスケープ経営研究会開発ワーキンググループ
アートフルゆめまつり実行委員会

OMIYA 街 MORI

■ おおみや「みどり」の体感ワークショップ実施報告

2024年7月26日最高気温37.2となった大宮で

「みどり」が生み出す「体感」の原理を実感！



「気温 25℃」の室内は快適なのに、「水温 25℃」の水風呂は冷たすぎます。

このように、「体感」とは温度によって決まるのではなく、同じ温度でもまったく異なる「体感」となることがあります。これが「体感」のメカニズムの面白いところです。

「みどり」の本質的な作用を理解するためには、「体感」を単なる「気温」という数値として捉えると見誤ることになります。そうではなく、「体感」を「関係」が生み出すものだとして捉えることで、「みどり」の本質がとてもよくわかるようになります。

7月26日に大宮で行われたワークショップは、こうした「体感」の基本原理を学び、「みどり」の「チカラ」の本質を実感し、「みどり」を暮らしへの活かすノウハウを習得する上で、とても充実した機会となりました。

「目からウロコ」の体感原理

「体感」は「温度」で決まるのではない！



ワークショップは室内での体感実験から始まりました。

身の回りにある素材の異なるものをそれぞれ触ってみて温度を体感します。たとえば金属を触ると冷たく感じますが、椅子のクッション部分を触ると温かい。その温度差は「5℃～10℃」くらいだと参加者は申告します。

その体感の違いを確認した上で、実際の表面温度を機器を使って測ってみると、みんなの予想に反してどの素材も同じ温度！誰もが驚きを隠せません。

ここで学んだ大きなポイントは、「体感」は自分の身体から外へ「熱」が移動するときの「移動スピード」によって決まるということでした。

鉄などの金属は「熱」の伝導率が高く、「熱」を素早く移動させるため冷たく感じたのだという説明に一同は大いに納得しました。

「暑さ」の犯人を探せ！



「体感」は「熱」の「移動スピード」で決まる！

私たちが街中で「暑い」と感じる仕組みを、この「原理」に則して解明しよう。

そうしたミッションを課して外へ出かけます。

外へ出ると「気温」は 36℃。「体感」はそれ以上で茹だるような暑さです。

グローブ温度計という機器で測ってみると「体感温度」は 40℃近くに達しています。

[体感]=[熱の移動スピード]

さっそく、この原理に則してこの「暑さ」のメカニズムを解明してみます。

屋外の路面温度を測定すると 54℃。

熱の伝わり方のひとつに「放射」という現象があります。

これは、高温になったものがそばにあると、空気を伝わらず電磁波として直接熱が伝わる現象です。

この 54℃という熱が「放射」という方法で、路面から身体にぶつかってくるように移動してくる。

つまり高温になった路面が「暑さ」の「犯人」と一同は理解します。

コンクリートジャングルのど真ん中に 快適な居場所をつくりだす！



「路面温度」が「体感」に影響したように、私たちのカラダを取り巻く周囲の「環境」との「関係」が「体感」に作用しています。

その仕組みを理解すれば、灼熱のコンクリートジャングルの真ん中でも、「環境」に手を加えることで意図的に快適な居場所を生み出すことができます。

そこでチャレンジしたのが「特設体感ブース」づくりです。

ここで最も重要な役割を果たすのが、高温になった路面から発せられる「放射熱」を遮断する「みどり」のチカラです。

周囲の路面が 54℃になっても水分を含む「みどり」の表面温度は 30℃台。

表面温度が低く抑えられた「みどり」で取り囲むように設置された「特設体感ブース」が大宮の繁華街の真ん中にお目見えしました。

このブースの中に入った瞬間一同はその快適さに驚き、居心地のよさを満喫します。

こんなに暑い日の繁華街の真ん中で、こんなに快適！

熱風としか感じなかった風が、「みどり」の中ではとっても涼しく感じる！

そして、繁華街の屋外で開放感に満たされながらビールで乾杯！

人工的で閉鎖的なエアコンの効いた室内にいるよりも、なんと贅沢なことか！

そんな幸せな感覚を一同は味わい、「体感原理」と「みどり」のチカラ、そしてそれらを応用することで生まれる「場」の魅力のつくり方、などなど多くの気付きを得て、「みどり」を扱う仕事に従事する立場で成すべき使命と、地元で活動するメンバーとして成すべきことを、認識しあう一日となりました。

「みどり」が取り持つ地元市民グループとの協働関係！



今回のワークショップは、LBAの中に2024年4月より組織された「開発ワーキンググループ」によって当初企画されました。「開発ワーキンググループ」の活動ミッションは、「みどり」が「体感」に及ぼすメカニズムを作用させて都市環境を自発的かつ持続的に再生させるスキームを開発することです。

そしてその可能性を際立たせることが今回のワークショップの役割でした。

そうした思惑から始動した企画でしたが、今回のワークショップは、LBAだけではなく「アートフルゆめまつり実行委員会」のメンバーとの協働で実施できたことに大きな意味がありました。

このメンバーは、16年間に渡って大宮の街全体を舞台とした市民主体の祭典を展開している地元の有力な市民グループです。

LBAとこの地元有力グループとの間で連携が進み、この二つのグループで「おおみや街もり倶楽部」という団体を立ち上げて、今回のワークショップは相互が対等な立場で協働して実践されました。

2025年5月に実施される「アートフルゆめまつり」の祭典では、「みどり」を活かした「街の舞台」づくりをこの「おおみや街もり倶楽部」が主体となって実践しようと弾みがついています。

「特設体感ブース」で活用した30鉢の樹木は、地元メンバーが募集した里親の手によって育成され、また来年の祭典に持ち寄って「みどりの舞台」づくりに役立てられる予定です。

「みどり」という存在は、人と地域との関係を継続的なものに変容させ、時間とともにその関係を強力なものへと育てていく役割を果たす。そうした「時間軸」を踏まえた取り組みに都市環境を創造する糸口があることを確認しあえた貴重な体験となりました。

LBA「開発ワーキンググループ」と「アートフルゆめまつり実行委員会」とで連携した「おおみや街もり倶楽部」の今後の取り組みにご期待ください。

■実施概要

・主催

『おおみや街もり倶楽部』

LBA 開発ワーキンググループと「アートフルゆめまつり実行委員会」の主要メンバーが主体となり、「みどり」のチカラを活用して大宮を心地よくする試みを継続的に実践する母体として大宮の地元で結成された団体。



・実施主体/企画・運営メンバー

ランドスケープ経営研究会開発ワーキンググループ

甲斐徹郎、萩野一彦、高橋和嗣、町田誠

アートフルゆめまつり実行委員会

栗原俊明、加藤久美子、小熊雄一郎、萩原さえ子

・後援

さいたま市都心整備部大宮駅東口まちづくり事務所

・協力メンバー

八下田誠、矢部真樹、小堺千紘、阪田修司、伊藤茂

坂崎健太郎、大庭義也、盧治、松本知美、森谷一彦

荒巻遼平、土屋貴志、大工原潤、新井孝治、福井直規

・スペシャルサンクス

株式会社 中央デパート

東武緑地株 株式会社

東邦レオ 株式会社

株式会社 風憩セコロ

快工房 株式会社

革工房クラムジーライフ

宮町一丁目自治会

篠崎菜摘、酒井伸子、岡林隆治、萩原徹(敬称略)



「街もりバスケット」

30鉢が用意され、ワークショップでの使用後は里親に預けられ、次回のイベント時に再活用される

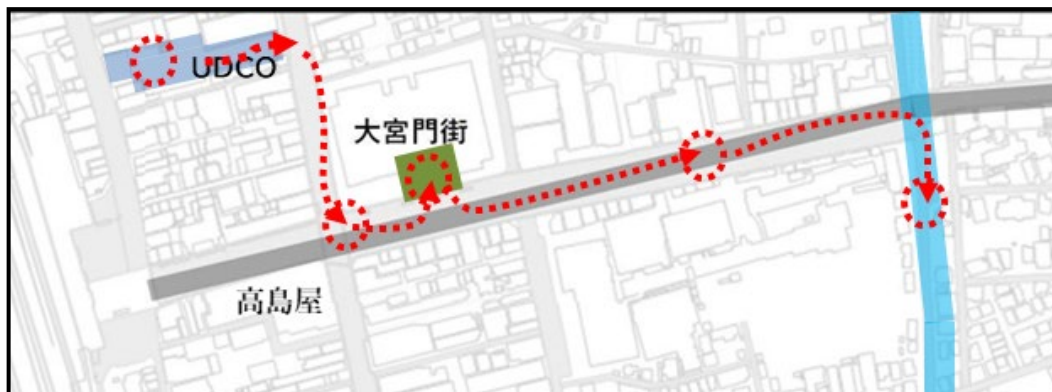


・開催場所

セミナー会場:大宮ラクーン 8 階『まちラボおおみや』

特設体感ブース:大宮門街歩道部

体感コース:大宮ラクーン→大宮区役所(北)交差点→氷川参道→大宮門街



・実施日程

2024 年 7 月 25 日(木)「特設体感ブース」の設置

7 月 26 日(金)「みどりの体感ワークショップ」の実施

～7 月 28 日(日)「特設体感ブース」を体感スペースとして開放

7 月 29 日(月)「特設体感ブース」の撤去

・参加総数 25 名

「みどり」のチカラを味わう
Green Living


「みどり」が生み出す涼しさの
体験 ・ 体感スペースです
ご自由におくつろぎください

提供
OMIYA
街
MORI

おおみや街もり倶楽部

「みどり」の里親募集

ここで使用したプランターを
預かっていただける里親を
募集いたします。
ご自宅や店先を心地よくする
ためにお役立てください。

詳しくはコチラをご覧ください 

提供
OMIYA
街
MORI

おおみや街もり倶楽部